

## 平成 24 年度入学者選抜学力検査問題

# 国 語

### 注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。  
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。  
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の( )の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号	番
---------	---

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 思い出を胸に刻む。 (2) 経費を節約する。

(3) 窓の外を眺める。 (4) 説明の一部を割愛する。

(5) 憩いのひとときを過ごす。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

(1) 部屋を清潔にタモツ。 (2) 相手に名前をツげる。

(3) 彼は知識がホウフだ。 (4) 試合をユウセイに進める。

(5) 制服を作るためにサイスンする。

3 「私はリレーの選手に選ばれました。」の——線の部分を単語に

区切った場合、正しいものはどれか。

ア 選ばれ／まし／た イ 選ばれ／ま／し／た

ウ 選ば／れ／ました エ 選ば／れ／まし／た

4 次の——線の部分の様子を表すのに、適切なものはどれか。

彼は芸術祭に向け、わき目も振らずに作品制作に取り組んでいる。

ア 才色兼備 イ 表裏一体 ウ 一心不乱 エ 変幻自在

5 「叔父が海外に行く」「私は父と見送りに行った」「急いで見送りに行った」という内容を一文で表したとき、解釈をする上で誤解

の生じないものはどれか。

ア 父と私は急いで海外に行く叔父を見送りに行った。

イ 父と私は海外に行く叔父を急いで見送りに行った。

ウ 私は父と海外に行く叔父を急いで見送りに行った。

エ 私は父と急いで海外に行く叔父を見送りに行った。

6 「治」を行書で次のように書いた。○で囲んだ①・②の部分には、楷書で書いたときとは異なる特徴がみられる。その組み合わせとして最も適切なものはどれか。

① 治 ②

ア ① 点画が独立している ② 折れが角張っている

イ ① 点画が独立している ② 折れが丸みを帯びている

ウ ① 点画が連続している ② 折れが角張っている

エ ① 点画が連続している ② 折れが丸みを帯びている

7 次の二首の和歌の  には同じ語が入る。適切なものはどれか。

見わたせば柳桜をこきまぜて都ぞ  の鋪なりける

鶯の谷より出づる声なくは  来ることを誰か知らまし

(古今和歌集「素性」)

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

次の文章は、ある絵師が仕事を依頼されて遠方の城に出かけていったという内容に続く場面である。

これを読んで、1から5までの問いに答えなさい。

けふけふと思ふほどに、十二年をおくる。絵師が妻待ちか<sup>ア</sup>ねて、絵師歸りてかへさんとて、人の物をおほく<sup>イ</sup>借りてけり。絵師、十二年といふに、金三十兩<sup>ニガ</sup>をえて歸りける道に、堂の有りけるに、仏に箔<sup>ハク</sup>をおさむとて、金をすすめけるに、「家にもて行きたらば、今生の宝にてこそあらんずれ、仏にまる<sup>ニ</sup>らせて、生生世世の宝をなさん。」と思ひて、三十兩ながら仏にまゐらせてけり。家に歸りたれば、妻よろこびて、「汝<sup>ニキ</sup>歸りてかへさんとて、おほく人の物を借りたり。なにかもて来たる。」ととへば、ありのままにかたり<sup>エ</sup>ければ、妻大いに怒りをなして、面あかく、息あつくして、「我、今生を主の為にまどはかされなんとす。一人まどふべきにあらず。」と<sup>注4</sup>。検非違使<sup>ケンビワイシ</sup>につけて、公に申しければ、事の有様をめしとはれけるに、ありのままにぞ申しければ、「心おほきなるものなり。」と<sup>注3</sup>。罪はせずして、一国の主になされけり。

(「宝物集」から)

(注1) 箔をおさむ || 金箔を張ろう

(注2) まゐらせて || 献上して

(注3) 生生世世の || 永遠の

(注4) 検非違使 || 警察・裁判を担当した官職

(注5) 公 || 朝廷

1 おほく<sup>イ</sup> は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 待ちか<sup>ア</sup>ね 思ひ<sup>イ</sup> 歸り<sup>ウ</sup> かたり<sup>エ</sup> の中で、主語にあたる人物が異なるものはどれか。

3 なにかもて来たる とあるが、妻は夫が持ち帰るものをどのようなことに使おうと考えていたか。十五字以内の現代語で書きなさい。

4 我、今生を主の為にまどはかされなんとす の意味として、最も適切なものはどれか。

ア 私の一生は、あなたのせいで悩み多いものとなりそうだ。

イ 私の一生は、あなたのために平凡なものとなりそうだ。

ウ 私の一生は、あなたのおかげで幸福なものとなりそうだ。

エ 私の一生は、あなたによって罪深いものとなりそうだ。

5 罪はせずして、一国の主になされけり とあるが、朝廷がそのように取り計らった理由として、最も適切なものはどれか。

ア 絵を描くことにひたすら打ち込む絵師の情熱に感激したから。

イ 仕事よりも家族を大切にしている絵師の思いやりに共感したから。

ウ ほうびをすべて仏に寄付した絵師の信心深さに感心したから。

エ 大金を稼ぐ方法を隠さずに話す絵師の正直さに感動したから。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑬は形式段落の番号である。

- ① 私たち日本人は、いまかなり寛容な世界に住んでいる。<sup>(1)</sup>
- ② ムラ社会的な世間の目やしきたりを互いに気にし合いつつ生きてきた日本人の生活感覚は、都市社会の成熟とともにずいぶん変質し、「やるもやらぬも本人の勝手次第。迷惑さえかけなければ、いちいち後ろ指を指されることを恐れる必要はない」という個人主義が浸透している。 **A** 冠婚葬祭のやり方、勤務時間や服装、隣人とのつきあいなど。
- ③ しかし同時にこのことは、対人関係における「自己決定」の機会を増やし、その分だけ、<sup>(2)</sup>決断に関わる不安を個人のなかに作り出しているといつてよい。
- ④ というのも、まったく無限定な意味での「個人の自由」といった理念は、この世の実生活においては、具体的に実現されることはあり得ず、 **B** 「個人主義」がいくら浸透したとしても、人間が生活していくことには、身体や情緒や<sup>(注1)</sup>理知を<sup>(注2)</sup>絶えず他者への表現として投げかけつつ、相互に影響を及ぼし合うことが本質的な条件として含まれているからだ。
- ⑤ 儀礼的な慣習は、現代社会では、一見、他者への強いられた「おつきあい」という側面だけで意識化されがちである。
- ⑥ しかしじつは、賀状交換のような一つの形式的なうつつわを使って、私たちは、現在の「私」の社会的なありようそのものを再確認し、また同時に、それを部分的に壊したり作り替えたりして再編成しているのである。
- ⑦ このことは、実際に手を染めてみて、その経験をよくなぞりな

おしてみればすぐ実感できる。

- ⑧ だれには書き、だれには書かず、だれにはこの程度のお知らせで済ませ、だれにはもう少し踏み込んだ表現を用い、だれには深い情緒の共有を訴える——こうした繊細で複雑な判断を使い分ける言語行為は、直ちに、自分自身の社会的人格がどのようなものとしてあるか、またありたいと思っているかという問いとなって撥ね返ってくる。
- ⑨ 言葉をかけることによって、相手の存在をある具体的な仕方でも認めること、それは同時に、自分が相手にどのような存在として承認されるかを(さしあたり、ただ一方的な私たちで)問いかけることである。そして、その承認のされ方が手応えとして実際に返ってくる時、初めて「私」の人格が具体的なかたちとなって成立するのである。言い換えると、そこで初めて「私」という容器がある内容で満たされるのである。
- ⑩ いうまでもなく、賀状交換や喪中<sup>(注3)</sup>はがきは、単なる一つの機会、些細<sup>(注4)</sup>といえど些細な機会にすぎない。
- ⑪ 私はここで、ある特定の儀礼的行為の大切さを説いているのではない。いわゆる「虚礼廃止」を堂々と実行している人のある種の強さを私は羨望<sup>(注5)</sup>しているくらいである。その人はそんなことをしなくても別の仕方でおのれの人格を立てているにちがいない。それはそれでいっとうにかまわないと思う。
- ⑫ 私が説きたかったのは、特定の儀礼的行為の「大切さ」ではなく、その行為が象徴的に表現している人間論的な「意味」についてである。
- ⑬ どんなに儀礼的行為を簡素に切りつめたり放棄したりしても、人は、何らかの「挨拶」的行動から自由になることは不可能であ

る。なぜならば、対人関係を抜き去った「私」とは、ただ頭の中で作られただけの空虚な観念にすぎないからだ。

(小浜逸郎「大人問題」から)

(注1) 情緒||様々な感情を生む心の動き。

(注2) 理知||物事の道理を論理的に考え判断する能力。理性と知恵。

(注3) 喪中はがき||喪に服していることを伝えるはがき。

(注4) 虚礼廃止||形だけになってしまった儀礼をやめること。

1  A、 B に当てはまる語の組み合わせとして適切なものはどれか。

ア A なぜなら B まるで イ A あるいは B まさか

ウ A たとえば B たとえ エ A ところで B やがて

2 (1) 寛容な世界 とあるが、「寛容な世界」とは、どういう社会か。文末が「社会。」となるように、②段落から十五字以内で抜き出さない。ただし、文末の言葉は字数に含めない。

3 (2) 決断に関わる不安を個人のなかに作り出している とあるが、

決断する際に不安を感じるのは、なぜか。

ア 自由が無制限に拡大していくために、私たちが決断すること  
で社会とのつながりが失われてしまうから。

イ 自由が無制限に拡大していくために、私たちが決断すること  
で都市社会の成熟が妨げられてしまうから。

ウ 際限のない自由は実際には存在せず、私たちは地域社会への  
貢献を重視して決断する必要があるから。

エ 際限のない自由は実際には存在せず、私たちは他者との関係  
を意識して各自で決断することになるから。

4 (3) 「私」の人格が具体的な私たちとなって成立する とあるが、「私」の人格が成立するのはどのようなときか。「賀状交換によって」に続けて二十五字以内で書きなさい。ただし、書き出しの言葉は字数に含めない。

5 段落の関係を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア ③段落は、②段落で示した社会の変化を否定して、反対の立場から問題をとらえ直している。

イ ⑥段落は、⑤段落で示した表面的な見方に対して、新たな観点を提示して論を展開している。

ウ ⑨段落は、⑧段落で挙げた身近な具体例に関して、対照的な例を挙げて問題を提起している。

エ ⑪段落は、⑩段落で挙げた例外的な状況を受けて、独自の考えを明示して論を補強している。

6 本文の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア 望ましい儀礼的慣習について、自由を重んじるムラ社会の特質に触れて提案している。

イ 現代人の言語行為の複雑さについて、個人主義を排斥する立場に立つて検討している。

ウ 現代社会における自己の存在について、儀礼的行為との関わりを通して考察している。

エ 伝統文化の継承の重要性について、都市社会が抱える問題点を踏まえて主張している。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

川島工務店に住み込むようになった中井剛は、<sup>(注1)</sup>宮大工の仕事に興味をもてないまま、日々を過ごしていた。しかし、<sup>(注2)</sup>棟梁や川口をはじめとする工務店の人々との交流や作業の手伝いを通して、少しずつ剛の考えは変わっていった。

「おれを弟子入りさせてください。」

とうとう言った、と剛は思った。

宮大工になりたいと思いはじめてから、この一言を口に出すのを長いこと躊躇<sup>ためら</sup>っていた。なぜなのか自分でも分からなかったが、おそらく父のことが胸に引つかかっていたからだろう。かつて父が通っていた同じ道をたどることに抵抗があったのかもしれない。しかし、いまはもう、<sup>(1)</sup>そんなことなど思いめぐらす気もなくなつた。

テーブルの周囲は、しんと静まり返っていた。みんなが箸をとめて、剛を見つめている。その向こうに、棟梁の厳しい顔があった。

「よし、分かった。」

棟梁が太い声で言った。

「今日から中井を弟子に加える。」

その言葉とともに、<sup>(2)</sup>みんなの目が和らいだと思うと、とつぜん弾けるような拍手が聞こえた。光男の祖母が微笑<sup>ほほえ</sup>んで手をたたいていた。

つられて工藤も拍手したが、棟梁と川口ほかの二人は何ごともしなかったように箸を動かさしはじめた。浮いてしまった工藤が手をとめ、 笑いかけてきた。

「ありがとうございます。よろしくお願ひします。」

剛はそう言って、ふたたび椅子に腰を下ろした。食事をはじめた

が、何を食べているのか分からないほど緊張しきっていた。

ようやく食べ終えたときは、棟梁と先輩たちが席を立っていったあとだった。剛は、ごちそうさんでした、と叫びながら食堂を飛び出した。表に出ると、すでにみんなは出発の準備をしていた。トラックの荷台に道具類を積み込んでいる。

「おい、中井、くすぐずすんな。」

トラックのそばで、川口が仁王立ちになって怒鳴<sup>どな</sup>っていた。

「先輩たちが運んでるのに、いつまでも飯を食ってるやつがあるか。」

いつもなら工藤の役目なのだが、なぜか川口がハツパをかけてくる。

剛は、あわてて工場へ駆けていった。途中で出会った岩本が、

「さつそく怒鳴られたな。」

と、笑いながら言った。

「中井くんは今日から新入りの弟子だからな。いままでよりも、きつく追いまわされるのを覚悟しなきゃ。」

そこへ道具箱をかついできた工藤が、わざと荒っぽく剛を小突いた。

「ほら、新弟子のくせに、もつと働かねえか。ぼやぼやしてると金槌<sup>きね</sup>で一発食らわすぞ。」

「はい。……ねえ、先輩、あとは何を運ばいいんすか？」

「もうねえよ。これで最後だ。」

「じゃあ、それを運ばせてくださいよ。何かかたいでいかねえと、また川口さんに怒鳴られちまう。」

「ばか言え。おれだって、手ぶらで行ったら怒鳴られるんだ。」

工藤は意地悪く道具箱をかついで駆けていった。

しょんぼりしていると、工場から出てきた木村が、

「ほら、これを運んでいけよ。」



5

生徒会では、あいさつ運動を進める上で、全校生徒にあいさつを呼びかけるための掲示物を作ることになった。あなたなら、次のA、Bのどちらの表現を選ぶか。AとBの表現の違いに触れながら、選んだ理由も含めてあなたの考えを書きなさい。

国語解答用紙②に、二百四十文字以上三百字以内で書くこと。

A	あいさつを交わすと気持ちよく一日が始まります。 みなさん、元気にあいさつをしましょう。 「おはようございますです。」
B	その君 元気がないぞ ますあいさつ